

宇都宮市社会福祉協議会ボランティアセンター

出前福祉共育講座 のご案内

～メニュー～

「視覚」障がいを学ぼう	★アイマスク体験 ★点字体験 ★盲導犬講話・体験 ★視覚障がいに関する講話 など
「聴覚」障がいを学ぼう	★手話体験 ★聴覚障がいに関する講話 など
「身体」障がいを学ぼう	★車椅子介助体験 ★肢体不自由に関する講話 など
ボランティアってどんな活動？ ふくしの心を育てよう！	★ボランティア活動についての講話 ★ふくしの心を育てるための基本講話

～利用料～

無料。ただし、講師とアシスタントの交通費のみご負担ください。

〔お問合せ〕

宇都宮市社会福祉協議会ボランティアセンター

電話:028(636)1285

FAX:028(634)2870

メール:miya-vc@ap.wakwak.com

令和7年4月

皆さんが生活する地域には、様々な立場の方が住んでいます。誰もが住み慣れた地域で、安心して生活するためには、お互いに支えあい助けあう「ふくしの心」が大切です。

宇都宮市社会福祉協議会ボランティアセンターでは、学校や企業・グループなどの団体を対象に、ふくしの授業を出前いたします。「障がいがあっても、自分でできることがある」「支援が必要な時と、必要でない時がある」ことに気づき、今後の学びにつなげていくことが大切です。

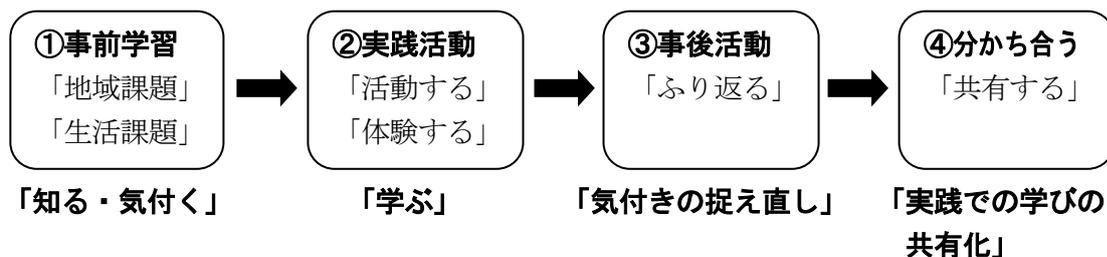
「できないこと」「困っていること」だけを特化して体験すると、障がいの負のイメージばかりがクローズアップされてしまい、同じ街で生活する仲間としての意識が育ちにくくなってしまいます。障がいがあっても自分たちとなんら変わらない仲間という、ふくしの心を醸成するための講座としてご利用ください。

～講座利用前のチェックリスト～

☑	チェック項目
	講座の目的は決まっていますか？ (参加者にどんなことを気づき、学んでほしいか、など)
	実施を希望する日時、内容は決まっていますか？ <u>※一度に複数の講座を開催するのではなく、受講者がゆっくりと学ぶことが出来るような設定をお願いします。</u>
	実施会場は確保できていますか？
	講師とアシスタントの交通費はご負担いただけますか？ (1人につき、1000円程度が目安です。)
	講座に使用する機材の運搬等にご協力いただけますか？ <u>(特に、車いすは、依頼者において、実施日の前後に運搬のご協力をお願いします。)</u>
	講座受講前の「事前学習」は実施していますか？ (様式に添付されている「事前学習シート」をご活用ください。)
	講座実施後の「ふり返し」を実施していただけますか？ (様式に添付されている「ふり返しシート」をご活用ください。)

※参考

■実施目的の設定と、過程（プロセス）が重要です。



～講座利用までの流れ～

■ステップ1【実施計画・相談】 **※実施希望日の「2カ月以上前」を目安に計画してください。※**

- 〔依頼者〕 ①講座の目的・実施希望日など「実施計画」を検討してください。
※一度に複数の講座を開催するのではなく、受講者がゆったりと学ぶことが出来るような計画をお願いします。
- 〔依頼者〕 ②ボランティアセンターに相談のお電話をお願いします。
- 〔依頼者〕 ③「実施計画シート（様式1）」と、依頼者にて用意した「実施会場の見取り図」「実施会場周辺道路地図」を合わせて、ボランティアセンターにFAXしてください。
FAX：028-634-2870

■ステップ2【実施日時等の調整】

- 〔ボラセン〕 ①様式1をもとに、ボランティアセンターで講師・アシスタントの調整を行います。
- 〔ボラセン〕 ②実施日時、内容、講師、アシスタントなどを決定します。
- 〔依頼者〕 ③「講師派遣依頼書（様式2）」の原本をボランティアセンターに送付してください（逡送の場合は「宇都宮市保健福祉総務課気付」にて「宇都宮市社会福祉協議会ボランティアセンター」宛てにお送りください）。
- 〔ボラセン〕 ④「実施決定書（様式3）」を依頼者宛てに送付します。

■ステップ3【事前打合せ】

- 〔ボラセン〕 ①事前打合せ（依頼者、講師、アシスタント、ボランティアセンター）の日程を調整します。
- 〔依頼者、講師、アシスタント、ボラセン〕
②事前打合せをボランティアセンターで実施します。講座の目的や受講者に気付き、学んでほしいことなどを講師、アシスタントにお伝えください。

■ステップ4【講座の実施】

- 〔依頼者、講師、アシスタント、ボラセン〕
①事前打合せにもとづき講座を実施します。
②当日、講師・アシスタントに交通費を直接お渡しください。



■ステップ5【事後アンケートの提出】

- 〔依頼者〕 ①「実施報告書（様式4）」の提出をお願いします。1種類の体験につき1枚、ご記入いただき、FAXでお送りください。（FAX：028-634-2870）

出前福祉共有講座プログラム（例）

（１）視覚障がいの理解

講座の種類	アイマスク体験
講座の目的	アイマスク（受講生持参の三角巾等）を装着して、「見えなくても出来る」ことを体験するための講座です。視覚障がい者の日常を学ぶ機会としてご利用ください。
お奨めの会場	教室や会議室など
1回あたりの目安時間	45分～50分程度
1回あたりの人数	30人～40人
講師・アシスタント人数	視覚障がい者 1名 ボランティア 1名
実施内容（例）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講話 『見えないってどんなこと？』 『日常生活での工夫』 など ・ アイマスクを付けて「見えなくても出来る」の体験 ・ 日常生活グッズの紹介 ・ 視覚障がい者への質問 など

講座の種類	点字体験
講座の目的	点字を書くことを体験し、視覚障がい者に情報を伝える手段の一つとして点字があることを知り、相手の立場を理解するための講座です。
お奨めの会場	教室や会議室など
1回あたりの目安時間	45分～50分程度
1回あたりの人数	30人～40人
講師・アシスタント人数	視覚障がい者 1名 ボランティア 1名
実施内容（例）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講話 『見えないってどんなこと？』 『日常生活での工夫』 『点字のルール』 ・ 点字体験 ・ 日常生活グッズの紹介 ・ 視覚障がい者への質問 など

講座の種類	盲導犬体験
講座の目的	視覚障がい者にとって大切な盲導犬の育成について、また盲導犬に対する注意事項などの講話のほか、アイマスク（受講生持参の三角巾等）を装着して盲導犬体験を行う講座です。盲導犬の役割を学ぶ機会としてご利用ください。
お奨めの会場	体育館や会議室など、広い会場
1回あたりの目安時間	90分程度（短時間にする場合は要相談）
1回あたりの人数	～80人 ※盲導犬体験は、20人程度まで。
講師・アシスタント人数	盲導犬育成ボランティア 2名
実施内容（例）	<ul style="list-style-type: none"> ・講話 『盲導犬の育成について』 など ・盲導犬体験 ・盲導犬の育成に関する質問 など

（２）聴覚障がいの理解

講座の種類	手話体験
講座の目的	手話で表現することを体験し、聴覚障がい者に情報を伝える手段の一つとして手話があることを知り、相手の立場を理解するための講座です。
お奨めの会場	教室や会議室など
1回あたりの目安時間	45分～50分程度
1回あたりの人数	30人～40人
講師・アシスタント人数	聴覚障がい者 1名 手話通訳者 1名
実施内容（例）	<ul style="list-style-type: none"> ・講話 『聞こえないってどんなこと？』 『日常生活での工夫』 『様々なコミュニケーション（ジェスチャー、口形）』 ・手話体験 ・聴覚障がい者への質問 など

(3) 身体障がい者の理解

講座の種類	車いす介助体験
講座の目的	車いすの介助を体験し、肢体に不自由がある方の気持ちと介助する側の気持ちに気づき、相手の立場を理解するための講座です。
お奨めの会場	体育館や会議室など、広い会場。または屋外。
1回あたりの目安時間	45分～50分程度
1回あたりの人数	30人～40人
講師・アシスタント人数	身体障がい者 1名 ボランティア 1名
実施内容(例)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講話 『身体障がいってどんなこと?』 『日常生活での工夫』 ・ 車椅子介助体験 ・ 身体障がい者への質問 など

(4) ボランティアについて／ふくしの心を育てよう

講座の種類	① ボランティア活動のポイント(講話) ② ふくしの心を育てよう(講話) ※小学生向け
講座の目的	① ボランティア活動を行う上でのポイントや注意点を学ぶための講座です ② ふくしの心を育てるための基本の講座です。※小学生向け
お奨めの会場	教室または会議室など
1回あたりの目安時間	45分～50分程度
1回あたりの人数	30人～40人
講師・アシスタント人数	ボランティアセンタースタッフ 1～2名
実施内容(例)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講話 『ボランティア活動のポイントや注意点』 など ・ 講話 『ふくしの心を育てよう』『障がいのある人について考えてみよう』 など